

きよようの人

平野啓子さん (53)

「防災は民の力でやるのが基本。でも、今は民の力が弱まっています。学校で防災を身に付けるところから始めないと」

8日、初めて小中学生を対象にした国内初の「ジュニア防災検定」を実施する。初回は関東と関西、九州で約2千人が受験し、今後、全国規模で受験者を増やしていきたいという。

一般的な検定と異なり、資格や級を得るための検定ではない。

「事前課題で家族と一緒にわが家の防災を話し合ってもらおう。試験で自ら考える力を養い、事後課題にハザードマップ作りなどをし、それを具体化し

防災検定協会理事長



ジュニア対象「将来、地域防災の中心に」

「集合社で共助や防災意識は

高かった。バケツリレーの訓練は当たり前。焚き火を消す当番もあり、地域のコミュニケーションが豊富でした」。それが、今後の地域防災に一番必要だと

元NHKキャスターで、名作文学や名文を朗読する「かたりすと」(語り部)になり「稲むらの火」に出合った。紀伊国広村(現和歌山県広川町)の浜口梧陵が安政南海地震(1854年)の津波から多くの人を救った実話だ。

インド洋大津波の翌年の平成17年、神戸で開催された国連防災会議で、その語りを披露。内閣府中央防災会議専門委員に選出されるなど次第に災害や防災との関わりが強くなった。

「地域で取り組む大切さ、それを将来に伝えることが私の使命の一つで、検定の狙いでもあります。検定を受けた子供たちが将来、地域防災の中心に立ってほしいな」と願っている。

(藤浦淳、写真も)